

新産業廃棄物最終処分場の整備について
フォローアップ説明会資料

令和3年 3月

茨城県

1 整備候補地の決定

「日立市諏訪町」の日立セメント太平田鉱山跡地を整備候補地として決定し、知事定例記者会見で公表しました。(令和2年5月26日公表)



2 住民説明会・エコフロンティアかさま見学会の実施

住民説明会やエコフロンティアかさま見学会では、日立市民の皆様から交通対策や周辺環境への影響などについて、多くの意見が寄せられました。

- ・住民説明会: 令和2年6月21日～8月30日 [計40回、参加者747名]
- ・エコフロンティアかさま見学会: 令和2年7月23日～11月29日 [計11回、参加者240名]



住民説明会の様子
(諏訪小学校体育館 R2.8.23)



3 交通問題対策会議における搬入ルート及び交通安全対策の検討

副知事を議長とする「新産業廃棄物最終処分場整備に伴う交通問題対策会議」において、搬入ルートや交通安全対策について検討を進めてきました。

- ・会議実施状況: 令和2年8月4日～令和3年1月末現在 [計15回]
- ・検討内容: 市街地を回避した搬入ルートの検討
国道6号～梅林通り～県道37号～国道349号までの交通安全対策



交通問題対策会議の様子



4 新処分場整備に関する各種調査の実施

整備候補地の地盤の強度や地下水の状況について、各種調査を実施しています。あわせて、施設構造・配置計画に必要な測量を実施しています。(調査期間: 令和2年9月末～)

- 〔地表・地質調査〕 岩盤の状況や石灰岩の空洞・割れ目の状況などの調査
- 〔水文・地下水調査〕 地下水の水位分布や地下水の利用状況などの調査
- 〔測量調査〕 施設構造・施設配置計画立案に必要な測量調査
- 〔周辺環境現況調査〕 大気や河川、地下水など、周辺環境の現況把握のための調査



ボーリング調査の様子

住民説明会での意見を踏まえた新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策

新たな搬入ルート・交通安全対策 (県の方針) [概要]

3P

1 新たな搬入ルート



4P

6 浸出水処理における安全性の確保



16P

2 交通安全対策・渋滞対策



5P

7 受入廃棄物の安全性の確保



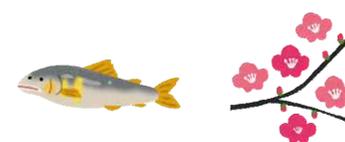
18P

3 併設施設の設置 (中間処理施設等)



7P

8 地域振興策



19P

4 周辺環境への影響



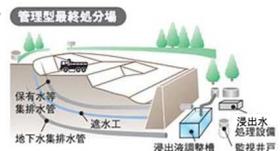
9P

9 地域との共生



21P

5 施設の基本計画



15P

10 整備スケジュール(案)



22P

新たな搬入ルート・交通安全対策（県の方針）〔概要〕



○搬入ルート

〔南側ルート(新設道路)〕

- ・山側道路から新処分場へ直接つながる道路を整備します
〔幅員8m・県道37号まで接続〕
〔一般車も通行できます〕
- ・新処分場の供用に合わせて開通できるように努めていきます
- ・原則として、南側新設道路が開通するまでは、新処分場への搬入は行いません
- ・詳細なルートについては、今後、現地調査・測量・設計をした上で決定していくことになります



図1.1 道路整備計画案

出典: 国土地理院地図

交通量調査結果

- ・調査期間：令和2年8月～令和2年9月
- ・調査内容：候補地周辺の7箇所において交通量調査を実施（平日12時間：7:00～19:00）

調査地点	車両通過台数	うち大型車台数※
①県道37号（日立高鈴ゴルフ倶楽部付近）	1,025	24
②県道37号（諏訪梅林～諏訪の水穴間）	1,750	230
③梅林通り（諏訪小学校下交差点）西側	4,356	268
④梅林通り（油繩子交差点）西側	3,385	261
⑤県道61号（常陸多賀駅入口交差点）西側	4,590	280
⑥県道61号（大久保中学校付近交差点）西側	8,803	281
⑦県道61号（塙山団地入口交差点付近）	9,236	341

※大型車：トラック、バス等（ナンバー 1、2、8、9、0）



南側新設道路を利用することで、市内通行の分散化につながり、既存道路の交通量削減が見込まれます



(1) 中間処理施設の必要性

① 県内産業廃棄物排出・処理状況

県内の産業廃棄物は、排出量のうち97.8%が中間処理されており、処理施設数は550施設（令和2年3月末）となっています

◆ 中間処理量と最終処分量の状況（平成30年度）

排出量計		再生利用量	減量化量	最終処分量※
11,211千トン（100%）		5,815千トン（51.9%）	5,251千トン（46.8%）	145千トン（1.3%）
うち中間処理施設での処理量	10,965千トン（97.8%）	5,594千トン（49.9%）	5,251千トン（46.8%）	120千トン（1.1%）

◆ 県内産業廃棄物中間処理施設数（令和2年3月末）

（力所）

破碎・圧縮	焼却（溶融合む）	発酵堆肥化	汚泥の脱水・乾燥	その他	計
360	25	21	14	130	550

※最終処分量には石炭火力発電所発生分（自社処理分）は含まない

② エコフロンティアかさまの状況

- エコフロンティアかさまの溶融処理施設は、現処分場設置時に、笠間市の一般廃棄物焼却施設が老朽化していた状況から、主に一般廃棄物処理を目的に併設しました
現在は、旧笠間市の一般廃棄物（約1万2千トン／年）と県内外の産業廃棄物（約2万2千トン／年）を処理しています
- 県内に焼却施設は25施設あり、県内産業廃棄物焼却施設全体の焼却実績のうち、エコフロンティアかさまの割合は7.4%となっています
- 焼却施設は県内に多く設置されており、特別管理産業廃棄物である感染性廃棄物や廃石綿類も含め、いずれの品目も既存の民間処理施設で処理可能な状況です

◆ 県内焼却施設の焼却実績（令和元年度）

		処理能力	焼却実績
県内焼却施設の焼却実績	量	1,650トン／日	458,207トン／年
	割合	100%	100%
うちエコフロンティアかさま	量	145トン／日	33,981トン／年
	割合	8.8%	7.4%

現状を踏まえた結果、中間処理施設は県内民間事業者による整備・運営が図られており、公共関与による施設整備の必要性が認められないため、整備しないことを県の方針とし、今後、市との協議や基本計画策定委員会での検討を経て決定していきます

(2) 環境を学べる場の創出

市民の皆様には日立市の自然や、資源循環の取組など環境に対する理解を深めていただく環境学習の場を造っていきます

諏訪梅林、鮎川、かみすわ山荘などの周辺環境とも連携した、環境都市宣言をしている日立市にふさわしい環境学習施設を目指します



環境学習施設イメージ
(北九州市環境ミュージアム)

○整備候補地の地盤、地質及び地下水の状況を確認するため、地表・地質調査や水文調査を実施し、その結果を踏まえ、必要な対策を講じていきます

(1)調査の位置づけ

- ・基本計画と基本設計段階では、地表・地質調査、ボーリング調査、電気探査などを行い、結果を解析して最終処分場全体の地質構成と地質構造、地下水の分布とその流向を明らかにする。
- ・実施設計段階では、基本設計段階の解析結果を踏まえ、調査を補足・追加し、高精度の解析を行う。

①地表・地質調査

[期間]令和2年9月下旬～令和3年1月下旬

[目的]整備候補地周辺の岩盤の状況や透水性、石灰岩の空洞・割れ目の状態等の把握

[方法]ボーリング調査を候補地内4箇所(深度25m～60m)、ボアホールカメラ観察1箇所、ルジオンテスト4箇所、電気探査を3測線実施



ボーリング調査作業状況

[調査概要]

○ボーリング調査 4箇所

[No.1(25m)、No.2(40m)、No.3(40m)、No.4(60m)]

計画地地下の地質構成、地質構造、岩盤状況を把握する。

○ボアホールカメラ観察 1箇所

No.1孔で、ボーリング孔内に専用のテレビカメラを挿入し、岩盤部の孔壁全周の展開画像を連続的に撮影し、割れ目の分布状況等を観察する。

○ルジオンテスト(透水試験) 4箇所

ボーリング箇所4箇所(No.1～No.4)の基礎岩盤の透水性を把握するため、ボーリング底部から5mの区間で段階的に圧力を上げて注水し、圧力と注水量から透水性を測定する。

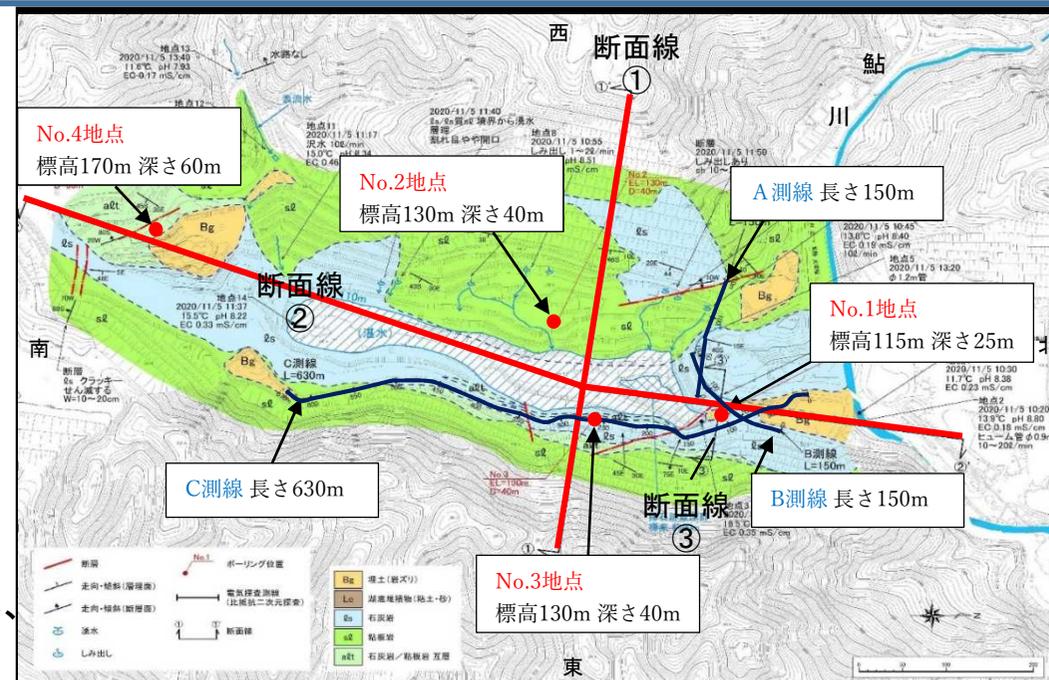


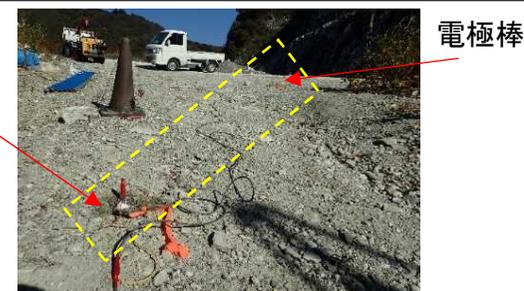
図4.1 調査地点平面図

②水文・地下水調査

〔期間〕令和2年9月下旬～令和3年3月下旬

〔目的〕整備候補地周辺の地下水の水位分布、表流水、湧水等の水質の把握

〔方法〕電気探査を実施するほか、水質分析、周辺地下水利用状況の調査、下水道敷設状況の調査



電気探査実施状況（B測線）

〔調査概要〕

○電気探査（比抵抗二次元探査） 3測線〔A、B、C測線で実施（合計930m）〕

岩石や地層の持つ電氣的性質の差異を利用して地下の構造を知る方法の一つで、5m間隔に電極棒を設置し、地表から電流を地中に流し、地層や岩石を流れた時の電位降下を測定して地層の比抵抗を求め、断面図を作成する。

調査結果をもとに、地盤中の大きな空洞等の有無、含水状況等を把握する。

※比抵抗：単位面積、単位長あたりの電気抵抗（物質の電流の流れにくさ）を表すもの。間隙率や地盤強度、地下水の状況などにより変化する。

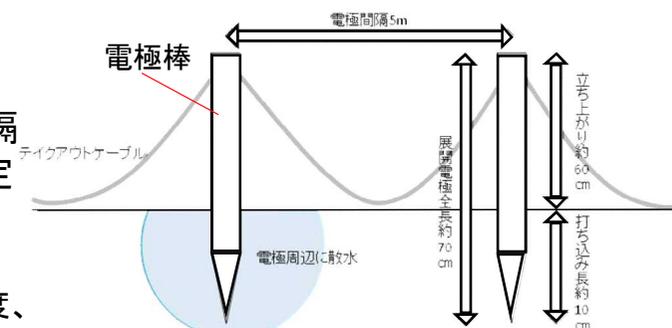


図4.2.比抵抗二次元探査概念図

③環境現況調査

〔期間〕令和2年10月下旬～

〔目的〕大気や河川、地下水など、周辺環境の現況把握

〔方法〕大気や河川、地下水の水質の分析などを実施

※（一財）茨城県環境保全事業団が実施

調査内容	調査箇所
大気	整備候補地、諏訪交流センター ほか
水質（河川水・底質・地下水）	鮎川 ほか
騒音・振動	整備候補地、諏訪交流センター ほか
生態系（動植物）	整備候補地
放射線量	整備候補地

表4.1 環境現況調査概要



河川水採取の様子



大気測定の様子

(2) 調査結果 (速報値 令和3年1月現在)

① 地表・地質調査 (1)

○ ボーリング調査結果

整備候補地の地質は、石灰岩と粘板岩を主体とする地層からなり、石灰岩は主に東側の法面に、粘板岩は西側の法面にそれぞれ分布しています。

なお、基礎地盤は硬岩地山(硬質で掘削が難しい地層)であり、処分場の地盤としては堅固であると考えられます。

地質概要



表4.2 ボーリング調査結果概要

孔番	深度(標高)	地層 ※浅い層から順に記載
No.1 (北)	25m (90~115m)	玉石混り礫、シルト質砂、石灰岩
No.2 (西)	40m (90~130m)	砂礫、粘板岩、互層、粘板岩
No.3 (東)	40m (90~130m)	互層、石灰岩
No.4 (南)	60m (110~170m)	砂礫、互層、粘板岩、石灰岩、粘板岩、互層、細粒砂岩

- ・互層: 粘板岩と石灰岩の地層が交互に堆積している地層
- ・粘板岩: 海底に堆積した泥が圧縮・固結されてできた岩

図4.3 ボーリング調査断面図(断面線①)

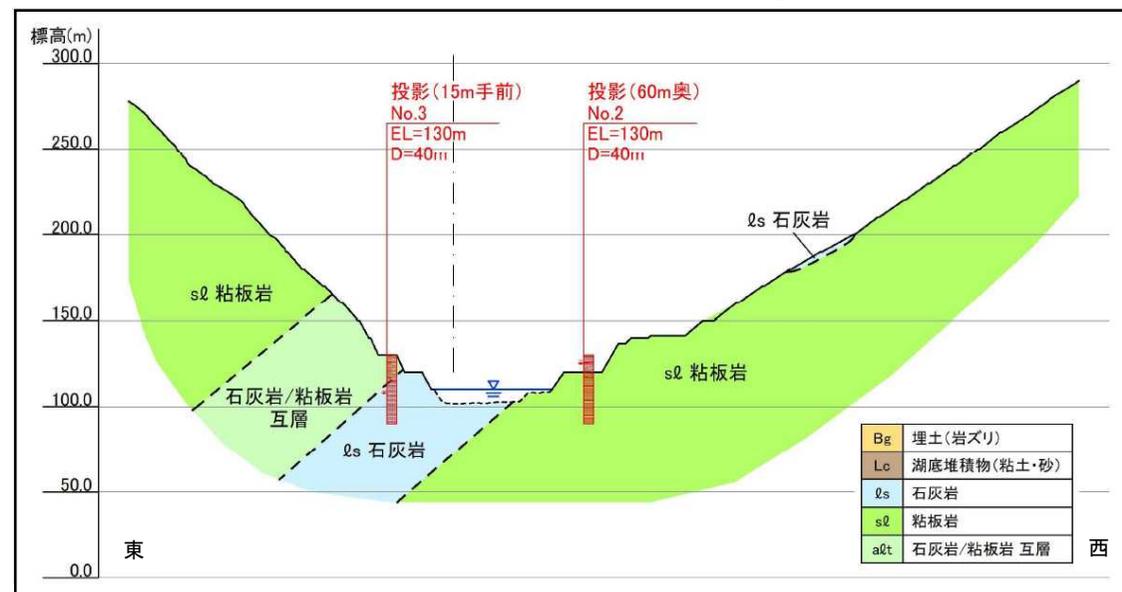
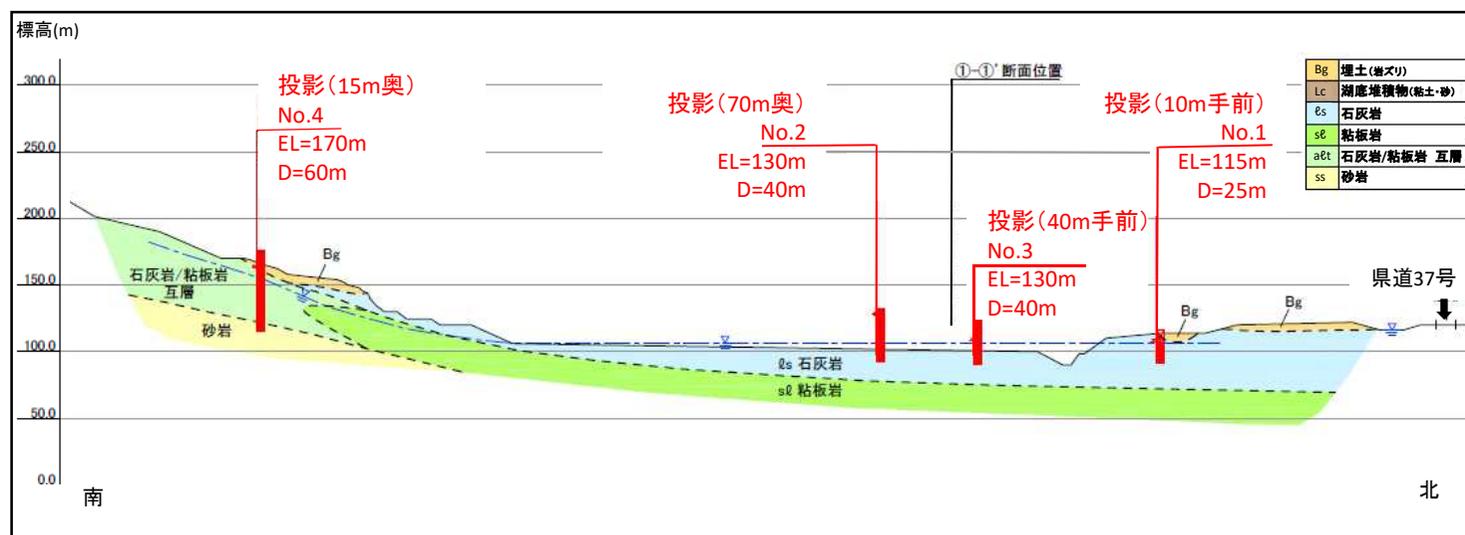


図4.4 ボーリング調査断面図(断面線②)



①地表・地質調査(2)

○電気探査結果

電気探査では、地層の比抵抗値を求めますが、比抵抗値と地質・土質の関係は、岩石の場合、硬質で亀裂の少ない岩盤ほど比抵抗値が高くなります。また、地下水が介在すると、亀裂や空隙が多い岩盤ほど比抵抗値は低下します。

電気探査の結果、基盤となる岩中には顕著な空洞を示す比抵抗値が低い箇所はなく、また、周辺の法面の状況から、規模の大きな空洞が存在する可能性は低いものと考えられます。

B測線、C測線には一部比抵抗値が低い箇所がありますが、モルタル等での埋戻しなどの施工で対応が可能であると考えられます。

断層が確認されましたが、活断層(※)ではありません。

※活断層：最近の地質時代(約260万年前以降)で、繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層

表4.3 各断面の解析結果の概要

断面	延長(m)	結果等
A測線	150	石灰岩中に比抵抗値が低い部分はないため、空洞の兆候は無い。局所的な埋土と思われる部分は $200\Omega\cdot\text{m}$ 以下と低い。
B測線	150	深部の石灰岩中には、比抵抗値が低い部分はないため、空洞の兆候は無い。 標高110m付近の湛水面より上部の石灰岩は $5000\Omega\cdot\text{m}$ 以上と比抵抗値が高い。湛水面下の石灰岩は $5000\sim 1000\Omega\cdot\text{m}$ とやや低い。
C測線	630	深部の石灰岩中には比抵抗値が低い部分はないため、空洞の兆候は無い。 標高110m付近の湛水面より上部にある石灰岩は、 $5000\Omega\cdot\text{m}$ 以上の高い比抵抗値を示し、下部の石灰岩は $5000\sim 1000\Omega\cdot\text{m}$ とやや低い。 距離程170m付近、340m付近には断層が分布し、この周辺は $500\Omega\cdot\text{m}$ 以下と周辺より低い比抵抗値を示す。

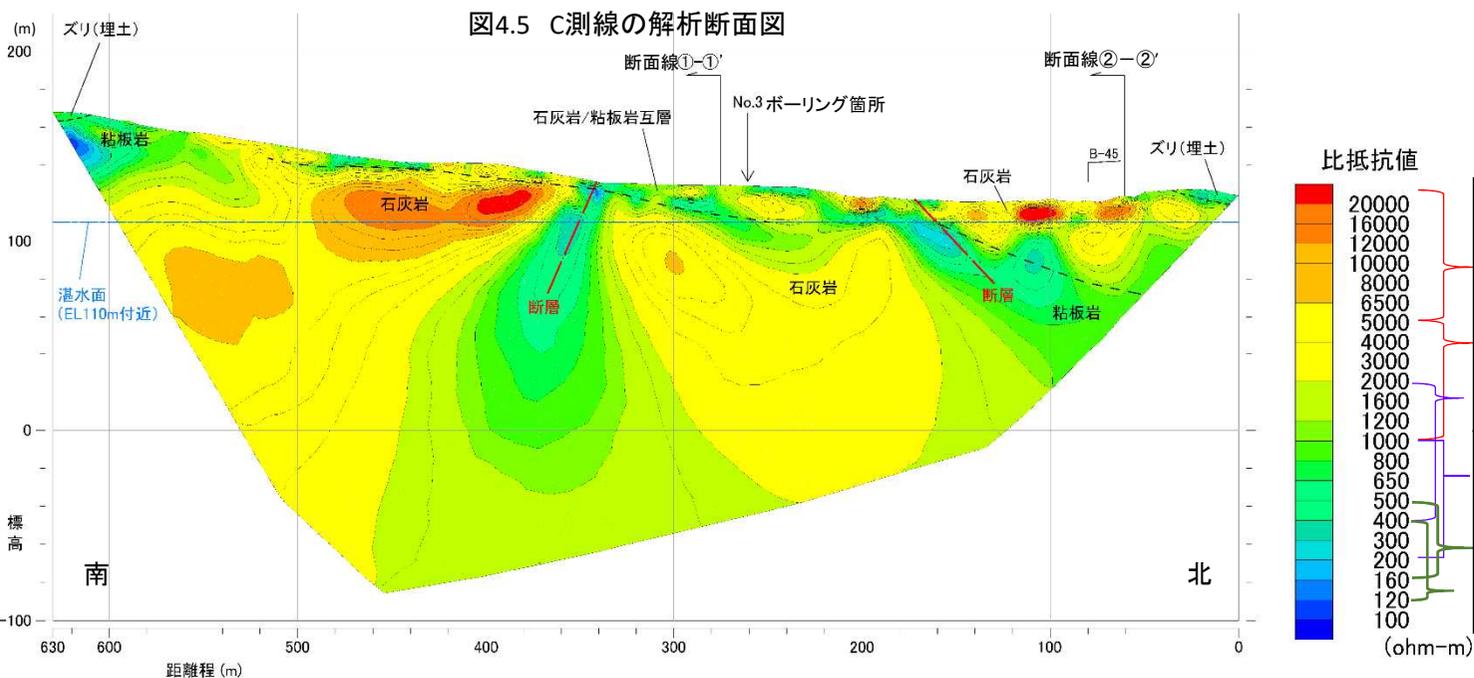


表4.4 調査地区における地質と比抵抗値の対比

地質	比抵抗値(Ω-m)
石灰岩(地下水位なし)	5,000以上
石灰岩(地下水位以深)	5,000~1,000
粘板岩及び石灰岩互層(地下水位なし)	2,000~400
粘板岩及び石灰岩互層(地下水位以深)	1,000~200
断層	500~160
埋土(砂礫)(地下水位なし)	400~120

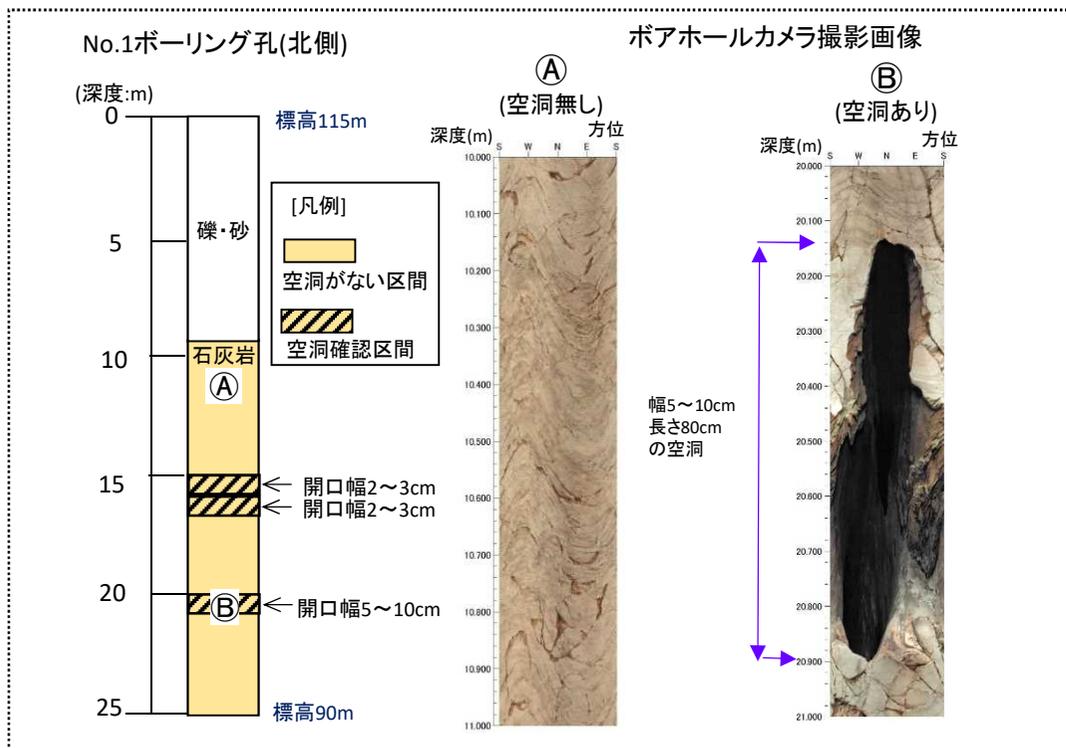
比抵抗値 (ohm-m)

20000
16000
12000
10000
8000
6500
5000
4000
3000
2000
1600
1200
1000
800
650
500
400
300
200
160
120
100

①地表・地質調査(3)

○ボアホールカメラ観察結果

No.1ボーリング孔(深度25m)の岩盤部(石灰岩)の孔壁全周を確認した結果、深度約10~15m、約17m~20m及び約21m~25mの層には空洞は認められず、緻密な石灰岩層となっていました。深度15~21mの層では部分的に小さな空洞と想定される箇所が認められました。



○ルジオンテスト結果

ルジオン値が高いほど高透水性となります。一般にダムでは、2~5ルジオン以下を目標に透水性の改良を行っています。透水試験(ルジオンテスト)の結果は下表のとおりでした。

No.1、No.2はルジオン値が高くなりましたが、No.3、No.4では1ルジオン以下となりました(No.1のルジオン値が高いのは小さな空洞によるものと考えられます)。

部分的に透水性が高い箇所が確認されていることから、十分な遮水構造を有した遮水構造を設ける等の安全対策を図った施設計画としていきます。

表4.5 ルジオンテスト結果

孔番	深度(m)	地層	ルジオン値(Lu)
No.1(北)	20~25	石灰岩	100以上
No.2(西)	35~40	粘板岩	77.86
No.3(東)	35~40	石灰岩	0.01
No.4(南)	55~60	細粒砂岩	0.00

表4.6 エコフロンティアかさま建設時のルジオンテスト結果

地層	ルジオン値(Lu)
風化していない砂岩、泥岩	0.00~1.15(埋立地内)
少し風化した砂岩、泥岩	2.0(埋立地内)
風化した砂岩、泥岩	7~13(埋立地外)

地表・地質調査の総合評価と今後の方針

- ・計画地は、東側は石灰岩、西側は粘板岩を主体とする硬岩地山です。
- ・石灰岩には、一部小規模な空洞が確認されましたが、全体として規模の大きな空洞が存在する可能性は低いと考えられます。
- ・透水試験の結果、一部透水性の高い部分の確認されましたが、No.1については、ボアホールカメラ観察の結果、試験を実施した区間に小さな空洞があることが原因と考えられます。今後、専門家の意見も聞きながら、処分場の配置や遮水対策を検討していきます。
- ・今後、これらの結果を基に、必要な追加調査を実施していきます。

②水文・地下水調査 (調査中)

整備候補地及び周辺の地下水や表流水の関連性の把握のため、整備候補地内(3地点)及び周辺7地点で水質調査(水中のpH、電気伝導度及びイオンの量を分析する調査)を実施しており、現在分析を進めています。

番号	(整備候補地内)	番号	(周辺)
1	場内最上流沢水	3	鮎川上流(場内排水合流部直上)
2-1	場内西側湧水	4-1	諏訪の水穴地点河川水
2-2	場内湛水	4-2	諏訪の水穴(空洞からの水)
		4-3	諏訪の水穴下流河川水
		5	鮎川支流
		6	計画地東側流域沢水
		7	鮎川下流

表4.7 地下水調査地点一覧

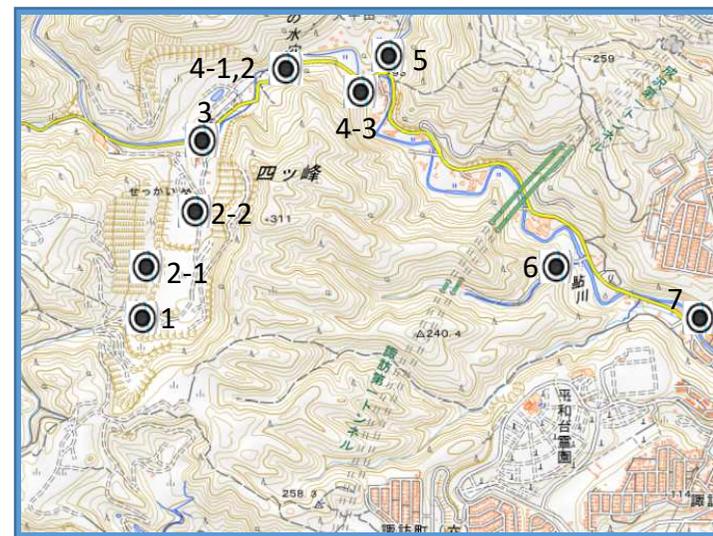


図4.6 水質調査箇所 出典:国土地理院地図

※周辺地下水利用状況の調査及び下水道敷設状況の調査は継続実施中

③環境現況調査 (調査中)

<大気測定結果(1回目、2項目のみの速報値)>

- ・令和2年12月11日～17日に整備候補地、諏訪交流センターの2箇所で実施
- ・環境基準設定項目である二酸化窒素、浮遊粒子状物質の測定結果は、いずれも環境基準を満たしています
- ・また、各地点の調査期間平均について、令和元年度の茨城県内環境大気測定結果と比較しても、同程度もしくは同程度以下の数値でした

[県内大気測定結果※]

[各地点の調査期間平均値]

二酸化窒素:0.006ppm → 整備候補地0.002ppm、諏訪交流センター0.006ppm

浮遊粒子状物質:0.015mg/m³ → 整備候補地0.004mg/m³、諏訪交流センター0.004mg/m³

※令和2年版茨城県環境白書における令和元年度年平均(一般環境大気測定局)

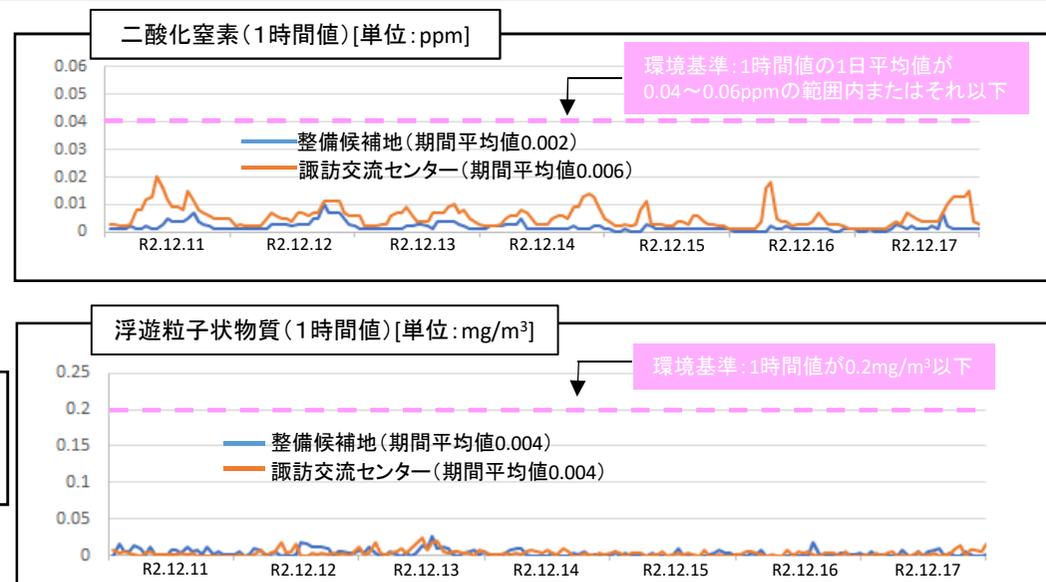


図4.7 大気測定結果(一部)

環境影響の評価の実施

○環境現況調査結果を基に、環境関連の専門家などで構成する生活環境調査委員会を設置し、そのご意見を踏まえながら、大気、地下水の水質、騒音・振動等への影響など、周辺環境への影響を予測し、必要な対策を講じていきます。

- 基本計画では、地質調査・地下水調査の結果を踏まえ、施設の配置、遮水の方法、浸出水処理施設の構造等を計画します
また、雨水による下流域への影響を防止するため、防災調整池の位置や規模について計画します
- 最新の知見や技術を導入するために、処分場の地質・廃棄物工学等の専門家などで構成する基本計画策定委員会を設置し、そのご意見を踏まえながら、進めていきます
- 委員会は公開で行うとともに、皆様のご意見を伺う機会を設け、地域との共生を目指した基本計画を策定していきます

作業内容

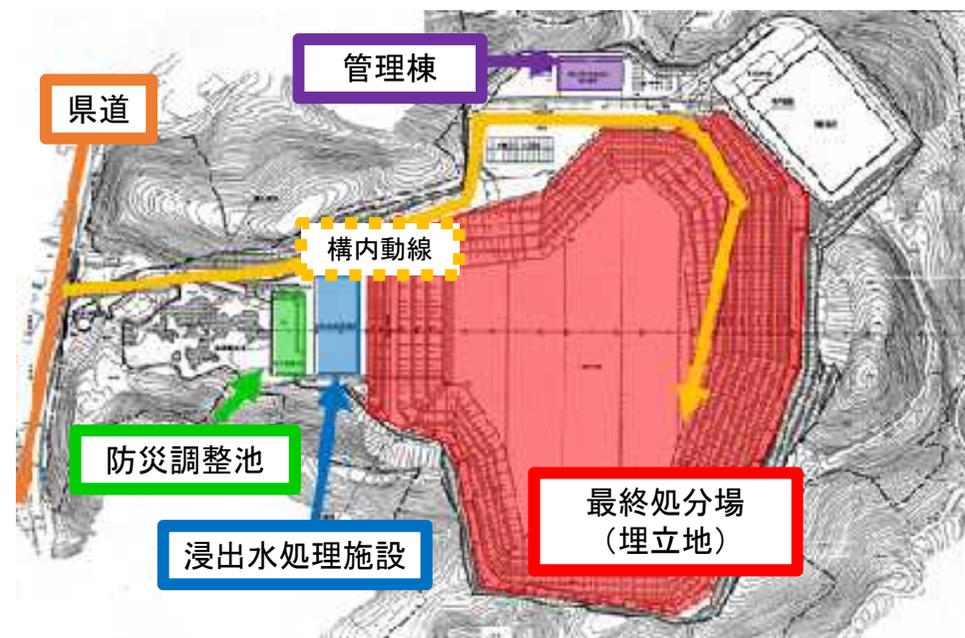
○環境保全計画の策定

水質、騒音、大気等の環境基準や自然環境の状況などを踏まえて、守るべき基準を整理し、環境保全目標を策定します

○施設の配置や構造計画の策定

埋立地の形状や浸出水処理施設及び管理棟の位置など施設の配置や構造計画を策定します
あわせて、雨水の放流先を検討し、防災調整池の位置を決定します

図5.1 施設配置図(エコフロンティアかさまの例)



(1)埋立地の構造

遮水構造

- 地形や地質の構造、地下水の流れ等を踏まえ、施設で採用する遮水の方法・構造を決定します
- 計画する遮水構造については、国の基準を上回る構造とします
- 遮水構造や漏水検知システムなどについて、最新の技術の導入も含めて検証します

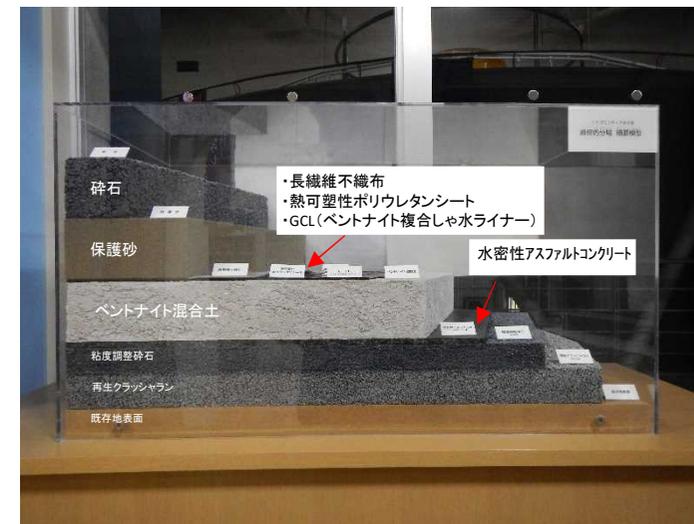
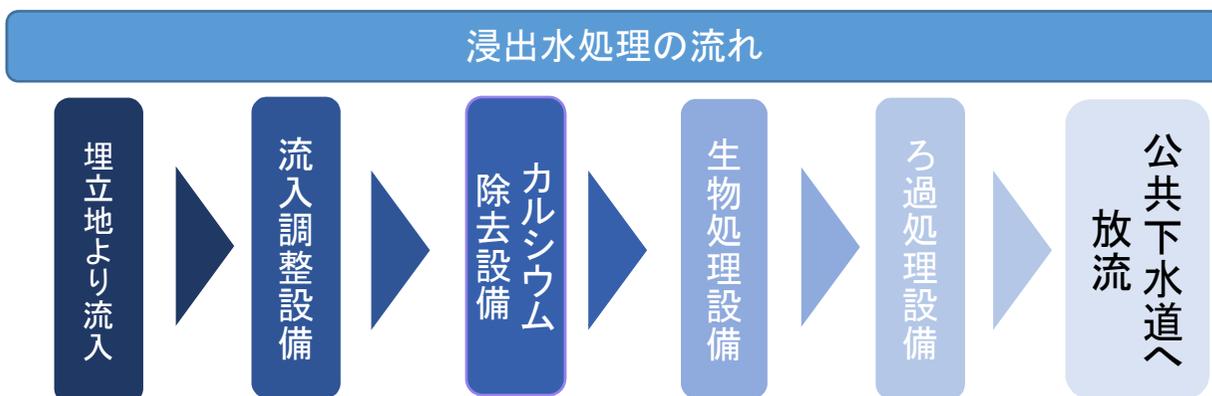
貯留構造物・埋立地造成方法

- 廃棄物を貯留する構造物(コンクリート擁壁等)や埋立地を造成する方法について、計画を策定します
- 耐震構造などについては、基本計画策定委員会において専門家の意見を伺いながら決定していきます

浸出水処理

- 浸出水は施設内の浸出水処理施設で浄化処理した後に公共下水道(池の川処理場)に放流し、周辺の公共用水域の保全を図っていきます

浸出水処理の流れ



エコフロンティアかさま遮水構造イメージ

エコフロンティアかさま浸出水処理施設内部
右奥が砂ろ過タンク

(2) 雨水・地下水排水

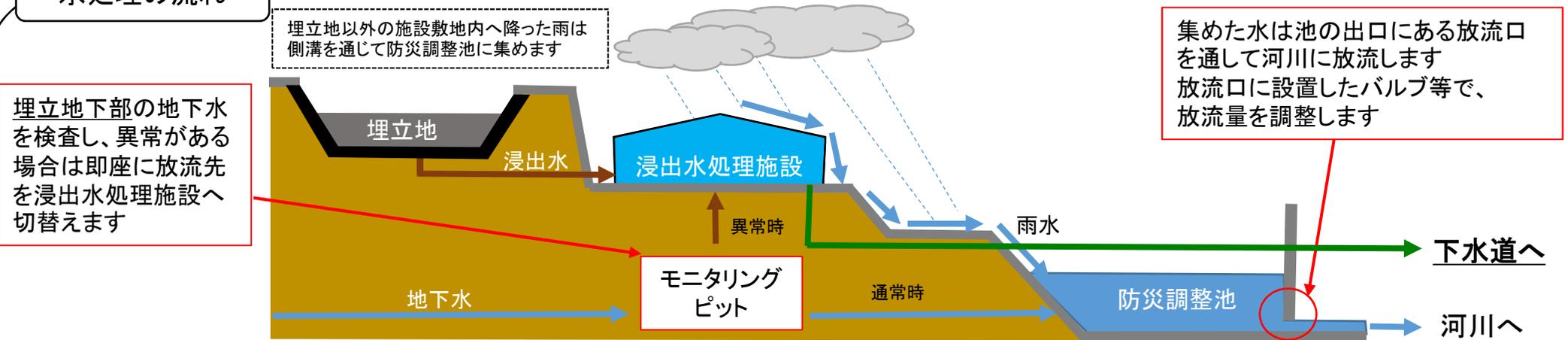
防災調整池等雨水の処理

- ・日立市のこれまでの降水量を考慮して、埋立地外に降った雨水を貯留する防災調整池の配置と規模を決定し、大雨の際に河川に流れ込む水の量を調整します
- ・具体の施設設計に当たっては、**近年多発している豪雨災害の状況等を十分考慮した施設規模**としていきます

地下水の集排水

- ・施設周辺の地下水の流れを考慮し、底面部の遮水構造に対して影響を与えることが無いように、迅速に地下水を集めて排水する管（地下水の水質に異常がないか確認するためにも利用）の設置位置、必要な規模、構造等を計画します

水処理の流れ



(3) 周辺地域の地下水等のモニタリング調査

モニタリング実施計画

地質調査・地下水調査などの結果から、地下水等の水質の安全を確認(モニタリング)するために必要となる井戸の配置、必要数、構造等を計画します

モニタリング結果の公表

工事着工前から鮎川や地下水の水質等の周辺環境のモニタリングを実施し、その結果を開示していきます
また、インターネットを活用した環境情報の開示の他、定期的に住民への報告及び意見交換の場を設けていきます

- 法令よりも厳しい自主受入基準に基づき受入れます。なお、腐敗物は受入れないので、悪臭等は発生しません
- 契約前の事前調査において、受入廃棄物の性状等を確認していきます
- 福島第一原子力発電所の事故に伴い発生した指定廃棄物は、現在、それぞれの市町村において安定的に分散保管されており、新処分場において埋立処分する予定はありません
- 搬入時の受入廃棄物の内容検査については、最新の技術等(例:蛍光X線分析装置など)を活用した検査システムの導入について検討していきます
- 基本計画では、受入廃棄物について以下の項目を検討、設定していきます

基本計画での検討項目	内容
○受入対象廃棄物の種類・処理フロー	受入する廃棄物の種類・処理フローを検討します
○受入量	廃棄物の種類ごとの年間受入計画量を設定します
○受入管理計画	有害な廃棄物及び環境に影響を及ぼす廃棄物の搬入を防ぐため、受入基準(※)を設定します
○廃棄物の事前調査・受入審査	事前調査の手法・審査方法を検討します
	最新の技術等を活用した検査システムの導入について検討します

※受入基準…環境の保全、処分場の適正な維持管理等を考慮し、受入廃棄物の性状などについて、各処分場が独自に定める基準。法令(金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令)よりも厳しい受入基準や、廃棄物の大きさ、形状、臭い、搬入方法などを設定したもの。

○地元の皆様がより暮らしやすい地域になったとっていただけるよう、生活環境の向上に必要なインフラ整備や候補地周辺の地域資源を活用した周辺環境の整備など、地域振興に繋がる取組を進めていきます

○なお、具体的な対応については、市や関係機関と、実施に向けた協議、調整を進めていきます

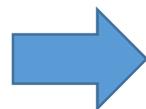
地域振興策(想定している事例)

① 生活環境の改善対策

○大平田地区への上下水道整備

大平田地区
の現況

上水道:水道(水源:地下水)、井戸水
下水道:浄化槽 等



上水道:上水道を整備していきます
下水道:要望に応じて整備を行います



② 交通安全対策等

○梅林通り・県道37号の交通安全対策

- ・油縄子交差点を改良(右折レーン延長・設置)し、交通渋滞を緩和します(再掲)
- ・ふれあい橋付近～諏訪の水穴～整備候補地の片側歩道を整備します(再掲)
- ・整備候補地から大平田集会所付近まで、急カーブなどの局部改良を行います(再掲)
- ・道路照明の整備などを行います



○周辺地区への防犯灯等の設置

③地域資源を活かした地域活性化対策

○諏訪梅林や諏訪の水穴周辺の整備

諏訪梅林周辺や諏訪の水穴周辺の整備など、市民の皆様が訪れやすい水辺の環境を整備していきます

○かみすわ山荘を中心とした憩いの場の創出

地域資源を活かした自然探索やレクリエーション、健康増進等、市民の憩いの場となるエリア整備をしていきます

(例:トレッキングルート、アスレチック、キャンプ場整備等)



※イメージ

○環境学習施設の整備(再掲)

日立市の自然や、資源循環など環境に対する理解を深めていただく、周辺環境とも連携した環境学習の場を造っていきます

○大久保の風穴周辺の環境整備

新設道路(南側ルート)を整備することにより、風穴へ訪れやすいようにしていきます



※イメージ

④地域コミュニティ活性化対策

コミュニティ活動等について支援していきます



＜諏訪梅林＞



＜鮎川、水遊び場＞



＜環境学習施設イメージ(北九州市環境ミュージアム)＞

○新処分場の運営については、廃棄物の適正処理や情報の透明性の確保により、周辺住民との信頼関係を構築し、併せて地域の振興にも貢献するなど、地域との共生が図られた施設運営を行ってまいります



＜環境保全委員会の様子＞
エコフロンティアかさま



＜地域住民とのふれあいイベントの様子＞
笠間市『福ちゃんの森公園』

- 跡地の利用については、地域の皆様の意向を十分踏まえた上で、県と日立市、事業主体である（一財）茨城県環境保全事業団で協議してまいります
- 埋立終了後も、定期的に水質検査を行うなど、適切に施設が廃止されるまで、将来にわたりしっかりと管理を続けてまいります

- 日上市から整備受入れの回答をいただいた後、新処分場の基本計画を策定していきます
- 基本計画策定後、環境影響の調査を実施し、実施設計、廃棄物処理法に基づく設置許可を経て、建設工事に着手し、令和7年度中の供用開始を目指します
- 搬入道路についても、処分場整備に合わせて整備を進めていきます

項目\年度		R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
処分場	基本方針 候補地選定・受入要請 地元住民説明	→	→	→					
	各種調査(地質・水文調査等) 基本計画・基本設計 環境現況調査・環境影響調査 実施設計		→	→	→	→			
	建設工事					→	→	→	★ 供用開始
搬入道路			→	→	→	→	→	→	

整備スケジュール(案)(R2～R4年度)

		R2年度			R3年度				R4年度			
内容等\時期		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
処分場	住民説明会	説明会		説明会 フォローアップ								
	測量		測量の実施									
	地質 地下水調査		ボーリング調査 電気探査		詳細調査							
	基本計画 基本設計 実施設計				基本計画・基本設計				実施設計			
	環境影響 の評価		周辺環境現況調査						環境影響調査・評価			
		生活環境調査委員会										
搬入道路	道路整備 (南側ルート)				道路整備事業着手(測量・調査・設計・施工) ※R5年度以降も継続							

住民説明会での意見を踏まえた新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策

項目	住民意見を踏まえた主な課題	整備に向けた課題への対応策
新たな搬入ルート	○最終処分場に直結する搬入ルートの検討	○搬入メインルートとして、新たに候補地の南側からの新設搬入道路を整備します
交通安全対策 渋滞対策	○梅林通り・県道37号の交通安全対策 ○大型車両の通行増加に伴う搬入車両の時間制限・交通制限 ○国道6号・油縄子交差点の交通渋滞対策 ○建設工事中の交通渋滞・交通安全対策	○梅林通り・県道37号の交通安全上の危険箇所について、急カーブやクランク箇所の局部改良を行います ○油縄子交差点、梅林通りからの搬入は行いません ○必要に応じ、通勤・通学時間を考慮した搬入時間の調整や、市街地における車両通行禁止区域の設定などの対策を検討します ○国道6号の交通渋滞対策については、国に対して市と連携して強く要望していきます。また、油縄子交差点を改良し、交通渋滞を緩和します ○南側新設道路を利用することで、市内通行の分散化につながり、既存道路の交通量削減が見込まれます ○建設工事中における工事関係車両の通行の際には、通勤・通学時間を避けることや、安全運転の徹底等の対策を行います
併設施設の設置 (中間処理施設等)	○中間処理施設設置の必要性 ○環境を学べる場の創出	○中間処理施設については、公共関与による施設整備の必要性が認められないため、整備しない方針とします ○環境都市宣言をしている日立市にふさわしい、日立市の自然や資源循環等について、市民の皆様にご理解を深めていただく環境学習の場を造っていきます
周辺環境への影響	○石灰岩地盤への安全性評価 ○井戸水や地下水への影響 ○処分場設置に伴う周辺環境への影響	○地盤、地質及び地下水の状況を確認するため、ボーリング調査や水文調査を実施し、その結果を踏まえ、必要な対策を講じていきます ○候補地周辺には、地下水を水源とする水道の利用や、井戸水の利用もあることから、上水道の整備への支援を行います ○環境関連の専門家などで構成する生活環境調査委員会を設置し、そのご意見を踏まえながら進めていきます
施設の基本計画	○市民意見を反映した基本計画策定	○処分場の地質・廃棄物工学等の専門家などで構成する基本計画策定委員会を設置し、基本計画を策定します ○基本計画策定委員会は公開で行うとともに、住民の皆様のご意見を伺う機会を設けます
浸出水処理における 安全性の確保	○遮水構造の安全性 ○異常気象に対応した浸出水処理対策 ○浸出水を放流する下水道管の確保 ○鮎川や地下水の水質モニタリングや観測データの公表	○国の基準を上回る遮水構造や、最新の技術の導入も含めて検証し、万全の遮水対策を講じていきます ○近年多発している豪雨災害の状況等を十分考慮した施設規模としていきます ○浸出水は施設内の浸出水処理施設で浄化処理した後に公共下水道に放流し、周辺の公共用水域の保全を図っていきます ○鮎川や地下水の水質等の周辺環境のモニタリングを実施し、その情報を開示していきます。また、インターネットを活用した環境情報の開示の他、定期的に住民への報告及び意見交換の場を設けていきます
受入廃棄物の 安全性の確保	○受入廃棄物の安全性の確保 ○最新の技術を活用した検査システムの導入	○廃棄物処理法より厳しい基準による受入れや、契約前の事前調査において、受入廃棄物の性状等を確認していきます。 ○搬入時の受入廃棄物の内容検査について、最新の技術等を活用した検査システムの導入を検討していきます
地域振興策	○諏訪梅林などの地域資源を活かした周辺環境整備の実施	○地元の皆様により暮らしやすい地域になったと思っただけのよう、生活環境の向上に必要なインフラ整備や候補地周辺の地域資源を活用した周辺地域の整備など、地域振興に繋がる取組を進めていきます
地域との共生	○日立市、日立市民との信頼関係の構築	○日立市や周辺住民との信頼関係を構築し、併せて地域の振興にも貢献するなど、地域との共生が図られた施設整備を進めていきます ○埋立終了後も、地域の皆様と協議しながら、定期的に水質検査を行うなど、適切に施設が廃止されるまで、将来にわたりしっかりと管理を続けていきます
整備スケジュール (案)	○整備スケジュールの提示	○基本計画策定後、環境影響調査を実施し、実施設計、廃棄物処理法に基づく設置許可を経て、建設工事に着手し、令和7年度中の供用開始を目指します ○搬入道路についても、処分場整備に合わせて整備を進めていきます

MEMO

ご自由にお使いください。

新たな最終処分場の整備に当たりまして、環境へ配慮した施設整備・運営に最大限努めてまいりますので、みなさまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします



日立市幸町の平和通り



茨城県 県民生活環境部 廃棄物対策課 新最終処分場整備室
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6
電話:029-301-3015 FAX:029-301-3039